

第40回積丹町文化祭

積丹町文化祭実行委員会（大橋正雄実行委員長）が主催する第40回積丹町文化祭が総合文化センターを会場に開催されました。

11月1日から3日まで開催された「作品展示会」には保育園児や小中学生、一般の方々までたくさんの方の皆さんから寄せられた書道や絵画、陶芸、手芸、生け花など合計570点の力作が展示され、合計325人が観賞しました。

また、期間中はニシン漁盛漁期を偲ぶ旧ヤマシメ福井邸が開放され、そばの石臼引き体験が行われました。

11月13日には「芸能発表会」が行われ、踊りやカラオケ、詩吟など19公演の披露に来場者186人からは一幕ごとに大きな拍手が送られていました。



100歳おめでとうございます 吉田アキさん(余別町)

—内閣総理大臣から祝状・町から敬老祝い金—



吉田アキさん(余別町)は11月

19日に100歳の誕生日を迎え、

この日、フルーツシャトーよい

ち(余市町)で松井町長からの祝状と記

念品の銀杯が松井町長から伝達

されました。

入所者や職員、長男の好雄さん

夫人など会場となった食堂に

集まった約50人は、大きな拍手

でアキさんを祝福しました。

吉田アキさんは明治43年生ま

れ。3年前から同施設でたくさ

んの利用者と一緒に楽しく生活

を送っています。

手拍子をつけながらうたを歌

ってみんなを楽しませるアキさ

んはいつも笑顔で施設内での人

々々です。

また、10月12日には、同施設

で内閣総理大臣からの祝状と記

念品の銀杯が松井町長から伝達

されました。

たくさんの人からお祝いされ

たアキさんは、素敵な笑顔を見

せていました。

好雄さんは「大好きな牛乳を

たくさん飲んで健康に気をつけ

いつまでも元気でいてほしいで

す。」と話してくれました。

積丹観光フォトコンテスト グランプリ

阿部和夫さん(札幌市在住)「残照」



積丹観光フォトコンテスト(積丹観光協会主催、全日本写真連盟積丹支部主管、積丹町など後援)の審査が行われ、265点の応募作品の中からグランプリの積丹観光協会会長賞に札幌市在住の阿部和夫さんの『残照』や準グランプリに次の3点が選ばれました。その他の入賞者は積丹観光協会HPで紹介しています。

■準グランプリ

- 「カップル」佐々木伴次郎さん(札幌市)
- 「競演」万谷知之さん(札幌市)
- 「美国漁港」柴田紀子さん(小樽市)

漁港・公園で清掃活動

落ち葉は海の栄養に — 美国漁港利用協議会 —

11月7日、美国漁港のプレジャーボート利用者で組織する美国漁港利用協議会(八戸良一会長)は、毎年春と秋の2回実施している美国漁港内の清掃活動を行いました。

この日は、同協議会会員30人が参加し、港内に散乱したペットボトルや空き缶、破損した漁具など約2時間でトラック1台分のゴミを拾い集めました。

また、11月21日には、同会員10名により憩いの広場の落ち葉集めを行いました。

約2時間で大型土のう袋10個もの落ち葉が集められ、広場はすっかりときれいになりました。

集められた落ち葉は、腐葉土へと加工され、来春以降、美国・美しい海づくり協議会(神哲治会長)が実施する磯焼け対策に栄養塩類として利用することとしています。

八戸会長は「全国的に深刻な磯焼け被害は、積丹町にとっても例外でない。海を利用する一人として少しでも海のためになることができればうれしい。」と話してくれました。



▲ 11月7日美国漁港清掃



▲ 11月21日憩いの広場落ち葉集め

税を考える週間

11月11日～17日

9人が「税に関する書道」入選

税を考える週間に合わせて、

11月11日～17日に「税を考える書道」が開催され、北後志5町村からの応募の中から、町内で9人が入賞を果たしました。

■銀賞

畑谷 圭治くん(美国中1年)

吉田 拓海くん(日司小6年)

■銅賞

藤田 啓克くん(美国中1年)

三國 恭兵くん(美国中1年)

斎藤 文瑠くん(日司小2年)

芳村 由羽さん(美国小4年)

佐藤 星来さん(美国小4年)

杉野 弘幸くん(日司小4年)

工藤 大陸くん(余別小6年)

入賞作品は11月11日から18日まで北海信用金庫本店ロビーに展示されたほか、町内児童生徒の入賞作品は、11月25日から30日まで美国郵便局に展示されました。

受賞結果は次のとおりです。

11月10日は「技能の日」

積丹町技能士会が 町と建設協会へ要望活動

厚生労働省では、毎年11月10日を「技能の日」と定め、職業能力開発の促進や魅力ある技能社会の形成を目指すため、諸行事を全国的に行っています。

その一環として、11月2日に積丹町技能士会(林欣司会長)では、同会員4人が技能の重要性と技能士の重用についての理解を求め、関係団体との連名により町長と積丹建設協会長に対し、技能士育成並びに技能士の社会的地位確立に向けた協力支援の「要望書」を手渡しました。

